論　文

中日両言語における不対応関係

高橋弥守彦　（大東文化大学名誉教授）

Situations where Chinese and Japanese Languages do not correspond

Yasuhiko TAKAHASHI

内容提要

在汉日两种语言的句子中，有单词层面和短语层面一一对应的情况，但这并不是多数，很多情况在意义上存在不对称关系，而在句子层面上基本存在一一对应的关系。本文将汉日两种语言分为单词、短语和句子三个类型，分析意义上的对应关系，并得出翻译是以句子层面的对应关系为基础的结论。

キーワード：意味対応　構造対応　単語レベル　連語レベル　文・分文レベル

目次：

０．はじめに
１．中日両言語意味上の不対応
２．中日両言語構造上の不対応
３．おわりに

0. はじめに

中日両言語の単語は辞典上では対応するが、下記の実例に見られるように、文中では単語レベルや連語レベルで意味的に対応する文（例 1，2）としない文（例 3，4，5）とがある。しかし、実例から見ると、単語レベルや連語レベルで対応しなくても、文レベルになれば基本的に対応する。

（１）“当然。”我自信地说。（『人民』95-9-99）

「もちろん」僕は確信をもって答えた。（同上、95-9-98）

（２）老婆被小江的盘算说服了。（『人民』95-7-99）

細君は江くんの計算に説得されてしまった。（同上、95-7-98）

（3）**他刚刚失恋**。（『人民』95-12-85）
彼は最近失恋した。（同上、95-12-86）

（4）**街对面有一家摩托车修理店**。（『人民』95-10-99）
大通りの向こう側に、バイクの修理屋がある。（同上、95-10-98）

（5）**女友的绝情令他痛不欲生**。（『人民』95-12-85）
彼女の心変わりに絶望し、死にたいとまで思った。（同上、95-12-86）

例（1）（2）は文中の中国語と日本語とが単語レベルでも連語レベルでも対応しているので、文レベルでももちろん対応している。このような実例は、実際はそう多くあるわけではない。（3）（4）（5）は単語や連語レベルでは対応していないが、文レベルでは対応している。実際には、このような実例がほとんどである。

単語や連語は静態単位であり文を構築する単位である。文はヒトの意思を表す最小の文法単位であり、実際の会話や文章に用い、ヒトの意思の伝達やヒトとヒトとの意思の交流に用いる動態単位でもある。中日両言語の上掲 5 例の対応関係を見ると、単語や連語レベルで対応していなくても、文レベルになると対応するので、翻訳では文を基本単位として、その前後の文法単位により、文を分析するほうがよさそうである。

本稿では前述する以下の 2 点について分析する。

ⅰ．両言語間では、各静態単位レベルにおいて不対応関係がなぜ多いのか。

ⅱ．両言語間は不対応関係であっても、文単位レベルになると、なぜ対応するのか。

1. 中日両言語意味上の不対応関係

以下では、単語レベル・連語レベル・文レベルに分けて中日両言語の対応関係を調査する。文中の中日両言語が対応する場合は、翻訳として問題はない。しかし、中日両言語が意味上・構造上で対応しない場合も相当ある。むしろ、その場合の方が圧倒的に多い。以下では、それに該当する実例を分析し、なぜそれでも文として成立するのかを分析する。

最初にこの問題を理論的に取り上げたのが今冨正巳である。今冨正巳は翻訳の要領として倒訳・加訳・不訳・分訳・変訳の 5 項目[1] を挙げ、呉大綱では 7 項目[2] を挙げている。本稿では翻訳の要領を若干増やし、「意味上の不対応関係」3 項目[3] と「構造上の不対応関係」5 項目[4] とに分けて検討する。

---

1) 今冨正巳（1995）の初版本は 1973 年であり、この本は中国の翻訳学界にも大きな影響を与えた、と記されている（1995：6）。本稿では 1995 年発行の新訂第 2 冊を参考としている。そこには上掲の翻訳の要領が 5 項目挙げられている。

2) 呉大綱（2014：18～21）では翻訳の一般的技法として、加訳・減訳（不訳）・反訳（裏返し訳）・変訳・倒訳（逆訳・ひっくり返し）・分訳・合訳の 7 項目を挙げている。呉大綱は本人の用いる術語と今冨正巳をはじめとするこれまでの研究者の用いている術語との関係も明確にしている。

3) 「意味上の不対応関係」とは筆者の言う「意味不対応・転成訳（変訳）・換言訳」の 3 項目のことである。

4) 「構造上の不対応関係」筆者の言う「増減訳（増訳・減訳）・倒訳・分合訳（分訳・合訳）」の 5 項目のことである。

中日両言語が「意味上の不対応関係」にある場合とは、筆者が以下に述べる意味不対応・転成訳・換言訳のことである。今冨正巳や呉大綱では転成訳（変訳）は訳出法の一つとして論じられているが、各言語に対する視点は10年ほど前から注目されてきた問題なので、視点[5]に関わる意味不対応と換言訳については言及されていない。

1.1. 意味不対応

以下の文は、中日両言語が各文法単位で意味的に不対応の関係にある。この関係を本稿では「意味不対応」と名づける。私たちはなぜそれを翻訳として容認できるのであろうか。単語・連語・文の各レベルに分けて分析してみよう。

A：単語レベル

以下の中国語の原文（例7，8）は、場面（言語環境）によって日本語訳をしているので、中日両言語では単語レベルの意味が異なっている場合である。ここには中日両言語の視点の違いが出ている。ただし、例（6）は単語レベルにおける対応と不対応との関係を明らかにするために、単語レベルで対応している場合として挙げてある。

（6）**她按时到了路口，贝和朋友也到了**。（『人民』95-6-99）
彼女は時間通りに四つ角に来た。貝と友人たちも来た。（同上、95-6-98）

（7）**他说**：**“看见什么？”**（『人民』94-5-93）
「何が見える？」と父が言います。（同上）

（8）**夜深了，乡亲们自然把杰和丛安顿在一间房一张床上**。（『人民』95-8-99）
夜が更け、人びとは自然に傑と叢に一つ部屋の一つベッドをあてがった。（同上）

例（6）の“**她**”は［彼女は］と訳され中日両言語では対応しているが、（7）の“**他**”は［父が］、（8）の“**乡亲们**”は［人びとは］と訳されている。（7）（8）の下線部はいずれも単語レベルで意味が不一致の場合であり、これらの訳は辞典上にあるニュートラルな訳ではない。しかし、日本語の文としてみると、これらの訳のほうが分かりやすい。上掲の3例から、日本語は場面によって訳し分けている、と言えるようである。

B：連語レベル

以下の中国語の原文と訳文とは、連語レベルで中日両言語の意味が不対応の場合である。下線部の連語は辞典上の意味で訳されていない。ここにも中日両言語の視点の違いが出ている。

（9）**新任局长也爱下棋，但牟德俊目前还不知道新任局长是不是也向来看不起手下败将**……
（『人民』95-2-99）
新局長も将棋が好きだ。が、彼も自分に負ける者を軽蔑するかどうか、牟徳俊はまだ知っていない……（同上）

[5] 高橋弥守彦（2017：56）では同じ現実を表現するのに中日両言語では違いのある場合があることを指摘し、その理由により中国語を実質視点（例：“打7折”）、日本語を話題視点（例：［3割引］）と名づけている。

（10）**阿浓颇为难，他不少朋友大大咧咧，随便惯了**。（『人民』94-1-93）

阿濃は困った。ぼくの友達には、おおまかで、気ままにやりつけている手合いがいっぱいいる。（同上、94-1-92）

（11）“**我们有**。”**姨摆着手，很热情地推辞**。（『人民』95-5-99）

「うちにもあるのよ」おばは手を振ってやさしく拒否する。（同上）

例（9）の名詞連語「名詞＋名詞」“**新任局长**”は、日本語では［彼も］、（10）の名詞連語“**他不少朋友**”は［ぼくの友達には］、（11）の説明連語「代詞＋動詞」“**我们有**”は［うちにもあるのよ］と訳されている。これらはいずれも中日両言語における連語が意味的に対応していない場合だが、文脈から見る日本語の文としては正しい。日本語はやはり場面によって訳し分けられている、と言える。以下も連語レベルで不対応関係になっている実例である。

（12）**我解放了似的长出一口气，一下子天地大多了**。（『人民』95-5-99）

僕は解放されたような気になって大きくため息をつく。急に世界が広がったようだ。（同上、95-5-98）

（13）**小餐馆开起来后，敏便忙碌起来，很快忘记了这个世界上军的存在**。（『人民』95-4-99）

食堂開店以来、敏は忙しくなり、この世に軍という人物が存在することも簡単に忘れてしまった。（同上、95-4-98）

（14）**渐渐地，她喜欢去找我妻子了**。（『人民』95-6-99）

次第に彼女は妻の勤め先に行くようになった。（同上、95-6-98）

例（12）の選択連語「動詞連語＋数量詞＋名詞」“**长出一口气**”は［大きくため息を吐く］、説明連語「名詞＋形容詞連語」“**天地大多了**”は［世界が広がったようだ］と訳されている。一般には辞典上のニュートラルな意味に基づいて、［息を長く吐いた］［天地がグーンと大きくなった］と訳すだろう。（13）の拡大選択連語「副詞＋形容詞＋動詞＋名詞連語」“**很快忘记了这个世界上军的存在**”は［この世に軍という人物が存在することも簡単に忘れてしまった］と訳されているが、一般には［この世界に軍が存在することをすぐに忘れてしまった］と訳すだろう。（14）の連動連語「動詞＋動詞＋名詞連語」“**去找我妻子了**”は［妻の勤め先に行く］と訳されている。これも［妻を訪ねていく］と訳すだろう。これらはいずれも中日両言語における原文と訳文との連語の意味が対応していない場合であるが、文レベルでみると、実質視点で表現する中国語には現実のひときれの一つひとつを具体的に表現する中国語の緻密な表現が充分に発揮され、場面によって訳す話題視点の日本語は簡潔で分かり易く、日本語の文として優れている。

C：文レベル

以下の中国語の原文は、文を作る中日両言語の単語や連語が意味上不対応の関係にあり、下線部の文は辞典にある単語の意味では訳されていない。しかし、文全体としての意味は対応している。ここには中日両言語の視点の違いが出ている。

（15）“**上楼，扛到三楼上去！**”（『人民』95-1-101）

「上だ、三階に運んでおくれ！」（同上、95-1-100）

（16）论年岁，也就十八九吧。（『人民』97-1-71）
歳の頃は、そう、十八、九といったところだったろう。（同上、97-1-70）

（17）洁一面叮嘱着丈夫，一面将自己的背包从肩上取下来，把香蕉、桔子、水蜜桃等怕压的东西塞进去，交到丈夫手里。（『人民』96-1-87）
潔は夫にこう言い聞かせながら、自分のショルダーバッグを下ろして、バナナ、オレンジ、スイミツトウなど傷みやすいものをそっとその中に入れ、夫の手に持たせた。（同上、96-1-86）

例（15）（16）（17）の中日両言語は、単語や連語レベルであれば不対応だが、文レベルの文意で見れば対応している。たとえば、（16）は単語や連語レベルの対応関係で訳せば、［上の階へ行こう、三階まで担いでおくれ。］となるだろう。しかし、この３例は、中国語は中国語として正しく、日本語は日本語として正しい。これは原文が単語レベルの意味を反映し、訳文が場面によって訳しているためである。このレベルの訳になるとかなり難度が高くなると言える。

1.2. 転成訳（変訳）

訳文の文構造を単純化して訳すことにより、原文どおりの文構造に訳すより、訳文が分かり易くなる訳出法を言う。この訳出法により、原文の文構造と異なる訳文となり、原文と訳文との連語の性質が異なってくる。これを転成訳[6]という。ここでの転成訳とは品詞レベルの転成ではなく、文・分文レベルにおける文成分の転成である。

（18）局长听了就沉沉叹气儿，说，你要早这样我说什么也得将你往上挪挪呀！嘿……（『人民』95-2-99）
話を聞いた局長は大きくため息をついて言った。もっと早くこんなだったら、何とでも言って君を引き上げてやったのになあ！……（同上）

（19）局长胜了棋心里当然愉快，每次都轻轻拍拍牟德俊的肩，微笑着说，小伙子！努力啊！（『人民』95-2-99）
勝った局長はもちろんごきげんで、その度に牟徳俊の肩を軽くたたき、にこにこして言った。坊や、頑張れよ！（同上、95-2-98）

（20）“上！到最顶层。”（『人民』95-1-101）
「さあ、一番上だ」（同上、95-1-100）

（21）顶层出售皮货、珠宝玉器、工艺品和地毯。（『人民』95-1-101）
最上階は革製品、宝石類、工芸品、カーペットの売り場だ。（同上、95-1-100）

（22）洁也回敬丈夫一个甜笑，目送丈夫上了火车。（『人民』96-1-87）
潔も甘い笑顔を返し、列車に乗り込む夫を見送った。（同上、96-1-86）

---

6) 今冨正巳（1995：133~138）・呉大綱（2014：19）では、筆者のいう転成訳のことを「変訳」と言っている。呉大綱は［翻訳の際に原文のなかの一部の品詞を変えたり、文の成分を変えたりすることである。］と説明している。

（23）**遵他吩咐，<u>车到百货大楼前停下</u>**。（『人民』95-1-101）

言いつけられるままに、<u>百貨店の前で車を止めた</u>。（同上、95-1-100）

例（18）は、原文の説明連語“**局长听了**”「名詞＋動詞」が訳文では名詞連語［勝った局長は］「動詞＋名詞」で訳されている。この訳出法により、訳文［話を聞いた局長は大きくため息をついて言った］の構造が単純化「主語［話を聞いた局長は］＋述語［大きくため息をついて言った］」され、文構造が分かり易くなっている。（19）は原文の「名詞＋選択連語」“**局长胜了棋**”が、訳文では名詞連語［話を聞いた局長は］「動詞＋名詞」に訳されている。この訳出法は、（18）と同様で日本語の文構造単純化の一環であり、分かり易くするためである。

例（20）は原文の選択連語“**到最顶层**”「動詞＋名詞」が名詞連語［一番上だ］「名詞＋名詞」で訳されている。この訳出法により、訳文［一番上だ］の構造が単純化「述語［一番上だ］」され、文構造が分かり易くなっている。（21）は原文の選択連語“**出售皮货、珠宝玉器、工艺品和地毯**”「動詞＋名詞連語」が名詞連語［革製品、宝石類、工芸品、カーペットの売り場だ］に訳されている。この訳出法は（20）と同様であり、文構造単純化の一環と看做せ、日本語では文構造と文意とが分かり易くなっている。

例（22）は原文の選択連語“**目送丈夫上了火车**”「動詞＋文形式の説明連語」が、訳文では選択連語［列車に乗り込む夫を見送った］に訳されている。この訳出法により、訳文［列車に乗り込む夫を見送った］の構造が単純化「目的語［列車に乗り込む夫を］＋述語［見送った］」され、文構造が分かり易くなっている。日本語では連体修飾語や連用修飾語が長くても目的語と述語との関係が短ければ分かりやすい。（23）は原文の連動文“**车到百货大楼前停下**”「名詞＋連動連語」が拡大動詞連語［百貨店の前で車を止めた］で訳されている。この訳出法は（22）と同様であり、文構造単純化の一環である。

1.3.　換言訳[7)]

中国語は表意文字で表す実質表現、日本語は話題となる場面に基づく話題表現なので、辞典上のニュートラルな意味に基づいて原文どおりに訳すと、日本語らしくなくなり、原文どおりに訳せない文がある。本稿では、この場面によって訳す話題表現を換言訳と名づける。以下では、単語・連語・分文レベルに分けて分析する。

A：単語レベル

単語レベルの換言訳とは、原文の単語の有する実質的な意味が訳文に反映されず、話題視点から見る場面によって訳す場合である。

（24）**他<u>又</u>使劲敲了几下，门才咿呀地打开了，露出青年男人的笑脸，原来是学校食堂的炊事员大戴**。（『人民』95-1-101）

7)　筆者の言う「意味不対応」は原文の意味どおりに訳しても訳せないことはないが、換言訳は原文とは異なる表現にしたほうが日本語らしくなる場合である。

こんどは強くたたくと、ようやくドアがギイッと開き、若い男の笑顔が現れた。学校食堂で炊事係をやっている戴さんだ。（同上）

（25）**迟先生欠欠身子说：“……是这么回事，我早就想送你一件礼物，不成敬意。”**（『人民』95-1-101）

遅先生はちょっと体をかがめて言った。「ええ……前からなにか贈り物したいと思っていたのですが、これは気持ちばかりのものです」（同上）

（26）**哥们儿就“嘿嘿”笑着擂他一掌说，你小子练精了这套就终身受益了！**（『人民』95-2-99）

友達は「やるもんだなあ」と笑いながら一発げんこつをみまって言った。そこまで練り上げたんだから、一生役に立つぞ！（同上、95-2-98）

例（24）の“**又**”は辞典上のニュートラルな意味［また］とは訳さず、［こんどは］と訳している。中国語では2度目なので“**又**”を使っているが、日本語は2度目なので、［今度は］を使っている。（25）の“**早就**”は［早くから、とっくに］と訳さず、［前から］と訳している。この訳はかなり以前からという気持ちがよく出ている。（26）の“**嘿嘿**”は［へへ、ヘッヘッ］と訳さず、［やるもんだなあ］と訳し、感心する意味をこめて表現している。この訳は後の分文の意味［そこまで練り上げたんだから、一生役に立つぞ］を活かしている。

B：連語レベル

連語レベルの換言訳とは、原文で用いている連語の有する実質的な意味が訳文に反映されず、話題視点から見る場面によって訳されている場合である。

（27）**“听我的，上去就知道了。”**（『人民』95-1-101）

「言うことを聞きなさい、上がったら分かる」（同上、95-1-100）

（28）**听了一会儿，他笑道：“值得，再贵也值得！”**（『人民』95-1-101）

しばらく耳を傾けてから笑っておっしゃった。「値打ちはあった、高くついたが値打ちはあったよ！」（同上）

（29）**门虽然只开了一条缝，屋里传来的高声喧笑已是震耳欲聋了。**（『人民』95-1-101）

ドアはちょっとしか開いていないが、部屋から聞こえてくる騒音はもう耳を聾せんばかりだ。（同上）

例（27）の動詞連語“**上去**”は［上がっていく］とは訳されず、［上がったら］と訳されている。これは話題視点による場面重視の訳である。（28）の動詞連語“**听了一会儿**”は［しばらく聞くと］とは訳されず、［しばらく耳を傾けてから］と訳されている。これも主体“**他**”の気持ちを表す話題視点による場面重視の訳である。（29）の拡大動詞連語“**只开了一条缝**”は［隙間をちょっと開けただけで］とは訳さず、［ちょっとしか開いていないが］[8] と訳されている。これも話題視点による場面重視の訳である。

[8] 肯定形の原文を否定形の訳文にする文を今冨正巳（1995：32~46）では「おもて訳とうら訳」として扱い、呉大綱（2014：19）では「反訳」（裏返し訳）として扱っている。

C：分文レベル

分文レベルの換言訳とは、原文で用いている分文の有する実質的な意味が訳文に反映されず、話題視点から見る場面によって訳されている場合である。

（30）**“自有大用。这是钱，去付款吧！”**（『人民』95-1-101）

「当然、大きな役目があるんだよ。さあ金だ。払ってきておくれ」（同上、95-1-100）

（31）**我接了钱，仍然不甘心地劝道：“就是买，也不用花这么多钱买这种厚地毯……”**（『人民』95-1-101）

僕は金を受け取ったが、それでも諦めずにまたすすめた。「買うにしても、こんなに高くてこんなに厚いものを買わなくても……」（同上、95-1-100）

（32）**然而奇怪的是，好些年过去了，牟德俊却未能得到多少好处。**（『人民』95-2-99）

だが不思議、数年たっても牟徳俊はなんのご利益にもあずからなかった。（同上、95-2-98）

（33）**阿浓只好这只耳朵进，那只耳朵出，或者干脆当补药吃。**（『人民』94-1-93）

阿濃はそんなことばを、右から左に聞き流すか、さっぱりした栄養剤をのんだと思うしかなかった。（同上、94-1-92）

例（30）の分文“**去付款吧**”は［払いにいっておくれ］とは訳されず、［払ってきておくれ］と訳している。これは話題視点による場面重視の訳である。（31）の分文“**仍然不甘心地劝道**”は［やはり満足することなくすすめた］とは訳さず、［それでも諦めきれずにまたすすめた］と訳している。これは主体“**我**”の気持ちを表す話題視点による場面重視の訳である。（32）の分文“**牟德俊却未能得到多少好处**”は［牟徳俊はまだ何らかの利益も得られず］とは訳さず、［牟徳俊は何のご利益にも預からなかった］と訳されている。これも話題視点による場面重視の訳である。（33）の“**阿浓只好这只耳朵进，那只耳朵出，或者干脆当补药吃。**”は［阿濃はやむなく右から左に聞き流すか、いっそ栄養剤としてのんだと思うことにした。］と訳さず、［阿濃はそんな言葉を、右から左に聞き流すか、さっぱりした栄養剤をのんだと思うしかなかった。］[9] と訳している。どちらに訳してもいいだろうが、（33）の訳文のほうが阿濃のやむをえない気持ちをよく表現している。

2. 構造上の不対応関係

実例中の中日両言語では単語、連語、文・分文の各レベルで、構造上不対応の場合が少なからず

[9] 今冨正巳（1995：32~46）では「おもて訳：“**只～**”“**只有～才能～**”“**才能～**”“**必须～才能～**”“**只能～**”」と「うら訳：“**只有～才～**”“**只有～才能～**”“**才～**”“**需要～才能～**”“**必须～才能～**”“**只能～**”」として扱い、呉大綱（2014：19）では“**只有你去，才能解决问题。**”［君が行ってこそはじめて問題が解決できる。］［君が行かなければ、問題は解決できない。］の例文と訳文とを挙げ、後者の訳を「反訳」（裏返し訳）として扱っている。

ある。中日両言語が「構造上の不対応関係」にある場合とは、筆者の言う増訳[10]・減訳[11]・倒訳・分訳・合訳のことであり、今冨正巳の言う倒訳・不訳・加訳・分訳のことである。本稿では筆者の項目別分類に従い、増訳・減訳・倒訳・分訳・合訳に分けて検討する。

2.1. 増訳（加訳）

「増訳」とは中国語の原文にはないが、原文にない語句などが日本語の訳文にある場合である。本稿では、原文にない訳が増えている部分を「増訳」という。「増訳」とは今冨正巳や呉大綱の言う「加訳」のことである。以下では、実例により増訳について単語・連語・文の各レベルに分けて分析してみよう。

A：単語レベル

以下の中国語の原文は、日本語の話題視点による言語環境によって訳しているので、中国語の原文にない語句がある場合である。ここには中日両言語の特徴が出ている。

（34）**然而牟德俊却从未让过局长马，而且煞有介事地全力拼杀到最后还总是输**。（同上、95-2-99）

それでも牟徳俊は馬を落とそうとしなかっただけでなく、いかにももっともらしく全力を挙げて最後まで戦い、いつも牟徳俊が負けた。（同上、95-2-98）

（35）**“剩下的拿回去你吃吧，车快开了。”丈夫眼盯着火车，催促着**。（『人民』96-1-87）

「もういいよ、残ったのは持って帰って君が食べればいい。もうすぐ発車するぞ」夫はしきりに列車のほうに目をやりながら、潔をせきたてた。（同上、96-1-86）

（36）**又朝上一指，反问：“怎么是送给别人了呢？不是铺在我屋里的天花板上了吗？”**（『人民』95-1-101）

そして上を指さして反問された。「どうして人に上げたなんて言うんだ？あれは私の天井に敷いたんじゃないか？」（同上）

（37）**牟德俊一听肠子都悔青了！**（『人民』95-2-99）

これを聞いて牟徳俊は悔しくてたまらなくなった！（同上）

（38）**他走到地毯旁边俯下身来，仔细打量标签上的尺码。然后，指着一块地毯说：“就买这个！”**（『人民』95-1-101）

先生はカーペットの前にしゃがみこみ、値札に書いてあるサイズを入念に確かめてから、一枚のカーペットを指さして「これを買う！」（同上、95-1-100）

（39）**“你看，”丈夫拿过洁的背包，里外翻了半天，愣住了，双唇哆嗦着问洁：“信呢？”**（『人民』96-1-87）

「ほらこれだよ」夫は潔のバッグを取り上げるとしばらく中をさがしていたが、突然顔色

---

10) 訳出法の名づけにも若干の違いが見られる。筆者は「増訳」と名づけているが、今冨正巳・呉大綱では「加訳」と名づけている。

11) 呉大綱と筆者は「減訳」と名づけているが、今冨正巳は「不訳」と名づけている。

を変え、くちびるを震わせながら潔に聞いた。「手紙を知らないか？」（同上）

（40）**“剩下的拿回去你吃吧，车快开了。”丈夫眼盯着火车，催促着。**（『人民』96-1-87）

「もういいよ、残ったのは持って帰って君が食べればいい。もうすぐ発車するぞ」夫はしきりに列車のほうに目をやりながら、潔をせきたてた。（同上、96-1-86）

例（34）の“**总是输**”は［いつも牟徳俊が負けた］と訳され、固有名詞［牟徳俊が］が増訳されている。（35）の“**催促着**”は［潔をせきたてた］と訳され、固有名詞［潔を］が増訳されている。（36）の“**不是铺在我屋里的天花板上了吗**”は［あれは私の天井に敷いたんじゃないか］と訳され、代名詞［あれは］が増訳されている。（37）の“**一听**”は［これを聞いて］と訳され、代名詞［これを］が増訳されている。（38）の“**标签上的尺码**”は［値札に書いてあるサイズを］と訳され、動詞［書いてある］が増訳されている。（39）の“**信呢**”は［手紙を知らないか］と訳され、動詞［知らないか］が増訳されている。（40）の“**眼盯着火车**”は［しきりに列車のほうに目をやりながら］と訳され、副詞［しきりに］が増訳されている。

増訳になっている単語は固有名詞［牟徳俊が］（例 34）と［潔を］（例 35）であり、これらは分文中の主体と客体とである。これらの文中に主体と客体を入れて増訳しているのは、複文がかなり長くなっているので、複文全体の関係と構造とを分かり易くするためである。（36）（37）は代名詞［あれは］と［これを］が増訳されている。これらを用いている文は単文であるが、これらを増訳しているのは、文構造上これらがないと分かり難くなるからである。（38）（39）は動詞［書いてある］［知らないか］が増訳されている。動詞が増訳されているのも文意からみる分かり易さのためである。（38）のような名詞連語は、よくそれらの関係を表すために動詞を増訳する。（39）は省略疑問文なので動詞を増訳している。（40）は副詞［しきりに］が増訳されている。これは副詞を加えることにより、文意を強めるためである。

B：連語レベル

以下の中国語の原文は、日本語では話題視点による言語環境によって訳されているので、増訳になっている場合である。日本語では、中国語の原文にない連語が増えている。ここにも文意の分かり易さを実現するために、中日両言語の特徴が出されている。

（41）**“呜——”火车已经进站了。洁仍在手忙脚乱地往丈夫的旅行包里塞着刚买来的吃食。**（『人民』96-1-87）

「うー」と低く警笛をならしながら列車がプラットホームに入ってきたが、潔は依然としてせわしげに、買ってきたばかりの食品を夫の旅行カバンに詰めている。（同上、96-1-86）

（42）**洁有些疲倦地往家走。**（『人民』96-1-87）

潔はきびすを返し、家に向かった。いささか疲れたようだ。（同上、96-1-86）

（43）**丈夫容光焕发地从卫生间出来，一脸喜悦地说：“洁、我们真的要有钱了。”**（『人民』96-1-87）

夫は汗を流し、輝くばかりの顔でバスルームから出て来ると、満面に喜色を浮べてまた

言った。「潔、ほんとうだぞ、おれたちは大金をつかんだぞ」（同上）

例（41）の“**鸣——**”は［「うー」と低く警笛をならしながら］と訳され、連語［低く警笛をならしながら］が増訳されている。（42）の“**往家走**”は［きびすを返し、家に向かった］と訳され、連語［きびすを返し］が増訳されている。（43）の“**容光焕发地**”は［汗を流し、輝くばかりの顔で］と訳され、連語［汗を流し］が増訳されている。

増訳になっている連語は［低く警笛をならしながら］（例 41）・［きびすを返し］（例 42）・［汗を流し］（例 43）である。これらはいずれも言語環境を考えた上での増訳であり、増訳されることにより、文意がいっそう分かり易くなっている。これらは文意を分かり易くするための必要最小限の増訳と言えるであろう。

C：文・分文レベル

本調査の結果、文・分文レベルでも増訳のあることが明らかになった。増訳は言語環境をよく考慮した訳であり、増訳があることにより文意を分かり易くさせている。なお、分文レベルの増訳は文頭か文末かの 2 類に分けられる。

（44）“**剩下的拿回去你吃吧，车快开了。**”**丈夫眼盯着火车，催促着。**（『人民』96-1-87）

「もういいよ、残ったのは持って帰って君が食べればいい。もうすぐ発車するぞ」夫はしきりに列車のほうに目をやりながら、潔をせきたてた。（同上、96-1-86）

（45）**忽然，洁的心猛地狂跳起来：天哪，我怎么把自己的背包交给了他，那里面……那里面有一封自己珍藏了二十多年的信啊。**（『人民』96-1-87）

突然、潔の心臓が高鳴りはじめた。大変だ！あんまりせかされたので、うっかり自分のバッグを夫に渡してしまったが、中にはこの二十年間大切にしまっておいた手紙が入っていたのだ。（同上、96-1-86）

（46）**她总担心把信放在家里迟早会惹麻烦。**（『人民』96-1-87）

いつまでも家に置いておくと、いずれトラブルの種になりかねないと思ったからだが、とんでもない間違いだった。（同上、96-1-86）

（47）**她爱丈夫，她不愿那封信在她和丈夫之间制造隔阂。**（『人民』96-1-87）

彼女は夫を愛していた。もしあの手紙が原因で二人のあいだに溝ができてしまったら、どう悔やんでも悔やみ切れない。（同上、96-1-86）

例（44）から（47）の実例は文節を増訳する例である。（44）の“**剩下的拿回去你吃吧，**”は［もういいよ、残ったのは持って帰って君が食べればいい。］と訳され、文節［もういいよ、］が増訳されている。（45）の“**我怎么把自己的背包交给了他，**”は［あんまりせかされたので、うっかり自分のバッグを夫に渡してしまったが、］と訳され、文節［あんまりせかされたので、］が増訳されている。（46）の“**她总担心把信放在家里迟早会惹麻烦。**”は［いつまでも家に置いておくと、いずれトラブルの種になりかねないと思ったからだが、とんでもない間違いだった。］と訳され、文節［とんでもない間違いだった。］が増訳されている。（47）の“**她不愿那封信在她和丈夫之间制造隔阂。**”は［もしあの手紙が原因で二人のあいだに溝ができてしまったら、どう悔やんでも悔やみきれない。］

と訳され、文節［どう悔やんでも悔やみきれない。］が増訳されている。

増訳になっている文頭の文節は［もういいよ、］（例 44）と［あんまりせかされたので、］（例 45）であり、これらは文節で表す「行為の中止」と「原因」である。ここにこれらの文節を増訳するのは、複文全体の文意と構造とを分かり易くするためである。（46）（47）は文末の文節［とんでもない間違いだった。］と［どう悔やんでも悔やみきれない。］であり、「結論」を表している。これらを増訳しているのは文意と文構造との面で、これらがないと分かり難くなるからである。

2.1. 減訳（不訳）

「減訳」とは中国語の原文にはあるが、日本語の訳文では訳されていない場合である。本稿では、この訳されていない語句などを「減訳」という。「減訳」とは今冨正巳の言う「不訳」のことであるが、呉大綱ではすでに「減訳」の術語を使っている。以下では、減訳について単語・連語・文の各レベルに分けて分析してみよう。

A：単語レベル

以下の中国語の原文は、日本語の話題視点による場面を考慮した日本語訳によって翻訳がなされている場合である。訳文では中国語の原文にある単語が訳されていない。ここにも中日両言語の特徴が出ている。

（48）**于是，那天碰巧来了机会，牟德俊便拿出棋来，杀气腾腾向局长下了战书。**（『人民』95-2-99）
そこでこの日、うまくチャンスが到来したので将棋の駒を取り出し、殺気をみなぎらせて局長に挑戦状をつきつけた。（同上）

（49）**大戴脚底下打了一个踢踏舞的节拍，拍手笑道：“听说您得了一大笔外快，邻居也跟着沾光啦！”**（『人民』95-1-101）
戴さんはタップ・ダンスのように足を鳴らしながら手をたたいて言った。「たいそうな臨時収入が入ったそうですね、近所もお陰をこうむるというわけで！」（同上）

（50）**到了他的宿舍楼前，我们把地毯抬到他住的二楼，等着他来开门。**（『人民』95-1-101）
先生の宿舎のある教職員寮に着いた。カーペットを二階のお部屋の前に運び、先生が鍵をあけるのを待った。（同上、95-1-100）

（51）**牟德俊冷冷地说，我下棋向来就是这个水平，只不过今天才真正让你见识见识！**（『人民』95-2-99）
牟徳俊は冷やかに言った。私はもともとこれくらい強かったんです、やっと今日本当のところを見せてあげただけのことですよ！（同上）

（52）**她一直珍藏着这封信，也珍藏着自己的初恋。**（『人民』96-1-87）
彼女はこの手紙を大切に保存し、自分の初恋を胸の奥深く秘めて来たのである。（同上、96-1-86）

例（48）から（52）までの実例では、文中の単語が減訳になっている。（48）の“**牟德俊便拿出棋来**”は［将棋の駒を取り出し］と訳され、固有名詞“**牟德俊**”が訳されていない。（49）の“**您得了**

一大笔外快”は［たいそうな臨時収入が入った］と訳され、代詞“**您**”が訳されていない。(50) の“**等着他来开门**”は［先生が鍵をあけるのを待った］と訳され、動詞“**来**”が訳されていない。(51) の“**一直珍藏着这封信，也珍藏着自己的初恋**”は［この手紙を大切に保存し、自分の初恋を胸の奥深く秘めてきたのである］と訳され、副詞“**一直**”と“**也**”が訳されていない。

減訳になっている単語は固有名詞“**牟德俊**”（例 48）と代詞“**您**”（例 49）であり、これらは原文の文中では主語となっている。日本語は動詞を見れば誰が主体なのか、ある程度分かるので、一般には主語を必要としない。中国語は主語がなければ誰の行う出来事か分からない場合が多いので、一般には主語を必要とする。この 2 例には、その特徴が表現されている。(50) (51) は動詞“**来**”“**下棋**”が減訳になっている。前者「鍵を開けるためには」は鍵を閉めてあるところまで必ず来なければならないので、日本語では鍵を開けるために鍵のあるところまで来る動詞“**来**”が省略されている。後者［もともとこれくらい強かったんです］は文脈により［将棋をさす］ことと分かっているので、場面によって訳す日本語訳では“**下棋**”が訳されていない。(52) は副詞“**一直**”と“**也**”の減訳である。日本語では副詞を訳すとかなり強い表現となるので、写実表現を好み大げさなことを嫌う傾向にある日本人は、よく中国語の副詞を減訳にする。

B：連語レベル

以下の中国語の原文は、日本語では話題視点による言語環境によって訳されているので、中国語の原文中にある連語が減訳になっている場合である。ここにも中日両言語の特徴が出ている。

(53) **迟教授的专著终于出版了。他得了一笔数目不少的稿酬**。(『人民』95-1-101)
遅教授の著作がやっと出版され、少なからぬ原稿料が入った。(同上、95-1-100)

(54) **他又使劲敲了几下，门才咿呀地打开了，露出青年男人的笑脸，原来是学校食堂的炊事员大戴**。(『人民』95-1-101)
こんどは強くたたくと、ようやくドアがギイッと開き、若い男の笑顔が現れた。学校食堂で炊事係をやっている戴さんだ。(同上)

(55) **那封信静悄悄地躲在夹层里**。(『人民』96-1-87)
助かった、手紙は、元通りバッグの中のポケットにあった。(同上)

例 (53) の“**得了一笔数目不少的稿酬**”は［少なからぬ原稿料が入った］と訳され、数量連語“**一笔**”が訳されていない。(54) の“**又使劲敲了几下**”は［今度は強くたたくと］と訳され、やはり数量連語“**几下**”が訳されていない。(55) の“**那封信**”は［手紙は］と訳され、「名詞＋量詞」“**那封**”が訳されていない。中国語は実質視点で表現するので、現実を言語化するために、すべての現実に対応する単語を原則として表現するが、日本語は名詞優先の話題視点で表現するので、往々にして内容が分かれば中国語の数量詞などは省略される傾向にある。

C：文・分文レベル

本調査の結果、文・分文レベルでは減訳のないことが明らかになった。これは文・分文レベルでは中日両言語は対応しているということを意味している。翻訳は文を基本として訳されるということの傍証になるであろう。

2.3. 倒訳

ここで言う倒訳とは単語・連語・分文の各レベル、およびそれらの混合で、訳文の順序が原文と逆に訳されている場合を言う。

（56）**牟德俊一听肠子都悔青了！**（『人民』95-2-99）

これを聞いて牟德俊は悔しくてたまらなくなった！（同上）

（57）**闲聊时朋友们就爱说他“有一套”，也不知是褒是贬。牟德俊便淡然一笑说，世间上的事，就这样！**（『人民』95-2-99）

友人たちは雑談のとき、ほめるともなく、けなすともなく、「要領がいいなあ」とよく彼に言ったが、牟德俊は平然と笑って「世の中って、そんなもんだろ」（同上、95-2-98）

（58）**这在和局长下棋这件事上就表现得很充分。**（『人民』95-2-99）

局長と将棋をさしているときも、この才能は十分に発揮された。（同上、95-2-98）

例（56）（57）（58）は単語と連語の語順が原文と訳文で逆になっている場合である。（56）の“**牟德俊一听**”は固有名詞“**牟德俊**”と動詞連語“**一听**”、（57）の“**闲聊时朋友们**”は名詞連語“**闲聊时**”と名詞“**朋友们**”、（58）の“**这在和局长下棋这件事上**”は代詞“**这**”と介詞連語“**在和局长下棋这件事上**”の語順だが、訳文はそれぞれ［これを聞いて牟德俊は］［友人たちは雑談のとき］［局長と将棋をさしているときも、この才能は］と訳され、原文と語順が逆になっている。

分析の対象となる原文と訳文とが逆の語順になっている本節の例文は、中国語には中国語の分かりやすい語順があり、日本語には日本語の分かり易い語順があるためである。中国語は動作・行為の行われる順序どおりの語順であるが、これらの日本語訳は主語と述語の関係を分かり易くするための語順である。

例（56）の中国語は「固有名詞“**牟德俊**”＋動詞連語“**一听**”」、（57）は「名詞連語“**闲聊时**”＋名詞“**朋友们**”」、（58）は「代詞“**这**”＋介詞連語“**在和局长下棋这件事上**”」の語順であり、動作・行為の行われる順序どおりである。だが、日本語は「選択連語［これを聞いて］＋固有名詞［牟德俊は］」、「名詞［友人たちは］＋名詞連語［雑談のとき］」、「名詞連語［局長と将棋をさしているときも］＋名詞［この才能は］」は「主語＋述語」を基本として構成されている。たとえば、（56）は［これを聞いて］を文頭に用いることにより、［牟德俊は］を主語、［悔しくてたまらなくなった］を述語とすることにより、文構造はより理解しやすくなる。他の例文も同様である。以下の実例は、前述の倒訳より、構造上さらに長い連語と連語との倒訳である。

（59）**昨天她翻出这封信，把它放进背包的夹层，打算带到单位锁进的抽屉里。**（『人民』96-1-87）

昨日それを探しだし、会社に持って行って机の引き出しにしまっておこうと、自分のバッグのポケットに入れておいたのだ。（同上、96-1-86）

（60）**由于写得一手还算可以的文章，再加上一些牟德俊明白而其他人不太明白的因素，回城后牟德俊被安排在一个不大不小的局机关办公室当秘书。**（『人民』95-2-99）

そこそこの文章が書けた上に、他人はあまり知らなくて自分だけが心得ている要素もあ

って、都会に戻った牟徳俊は大きくもなく小さくもない局クラスの役所の弁公室秘書となった。（同上、95-2-98）

（61）**下乡插队那会儿，他老在生产队长面前点头哈腰满脸堆笑装出一副孙子样，于是就捞了不少好处，被派干轻松活，挣满工分。后来有了政策，知青开始回城了，他又第一批回城。**（『人民』95-2-99）

農村に下放していたころ、彼はいつも生産隊長にぺこぺこ頭を下げ、満面に笑みをたたえてヘイコラしたおかげで、楽な仕事に回されたり、労働点数でも満点をもらうなど、ずいぶんとうまい汁を吸ったものだ。やがて政策が変わり、知識青年は都会に帰り始めたが、このとき真っ先に帰ったのも彼だった。（同上、95-2-98）

例（59）（60）（61）は下線部で示す前後の連語の語順が原文と訳文とで逆になっている場合である。（59）の“**把它放进背包的夹层，打算带到单位的抽屉里**”は前項が“**把它放进背包的夹层**”、後項が“**打算带到单位的抽屉里**”、（60）の“**牟德俊明白而其他人不太明白**”は前項の連語が“**牟德俊明白**”、後項の連語が“**其他人不太明白**”、（61）の“**于是就捞了不少好处，被派干轻松活，挣满工分**”は前項が“**于是就捞了不少好处**”、後項が並列関係にある二つの連語“**被派干轻松活，挣满工分**”の語順だが、訳文はそれぞれ［会社に持って行って机の引き出しにしまっておこうと、自分のバッグのポケットに入れておいたのだ］［他人はあまり知らなくて自分だけが心得ている］［楽な仕事に回されたり、労働点数でも満点をもらうなど、ずいぶんとうまい汁を吸ったものだ］と訳され、下線部で示す原文と語順が逆になっている。

分析の対象となる原文と訳文とが逆の語順になっている本節の実例は、中国語には中国語の分かり易い語順があり、日本語には日本語の分かり易い語順があるためである。中国語は動作・行為などの行われる順序どおりの語順（例 59，60）と結果と具体例の語順（例 61）であるが、日本語は「目的＋手段」（例 59）、規定的なむすびつき「中心語との関係が薄い＋濃い」の関係（例 60）、「二つの具体例＋結果」（例 61）であり、話題視点で表現する日本語は、これらの表現のほうが分かり易い語順となる。

2.4.　分訳

分訳とは、原文の文または分文を分けて訳す方法である。この分訳には本来一つである原文を読点で分けて訳す方法、増訳して分けて訳す方法、倒訳して訳す方法の 3 類がある。これらはいずれも文意を分かり易くするためである。

A：原文を分訳する訳出法

一つの原文を二つに分けて訳出する方法である。これは構造上読み易くするという効果がある。

（62）**丈夫走的时候儿子拉着父亲的手不放。**（『人民』96-3-87）

夫が家を出て行く日、息子は父親の手を握って放そうとしなかった。（同上）

（63）**为了给这笔难得的收入选择最佳消费方式，我们召开了好几次“学术讨论会”。**（『人民』95-1-101）

この得難い金の最良の使途についても、何を選択すべきかで、僕たちは何回も「学術討論会」を招集した。（同上、95-1-100）

例（62）は単文であり、原文の状況語の部分“**丈夫走的时候**”を訳文では読点を打ち、構造上分かり易くしている。（63）は目的を表す介詞連語“**为了给这笔难得的收入选择最佳消费方式**”が長いので、文頭に用いている文である。日本語訳はその部分を分訳することにより、分かり易い構造にしている。

B：増訳して分訳する訳出法

原文の一部を増訳して分訳する訳出法である。原文の一部を増訳することにより、訳文の文意が分かり易くなっている。

（64）**以后的日子里，信就成了洁的一块心病**。（『人民』96-1-87）
それからというもの、手紙のことを思って、潔は落ち着かぬ日々を送った。（同上、96-1-86）

（65）**男友后来在大串联的途中得病死了**。（『人民』96-1-87）
彼はのちに紅衛兵になり、全中国を股にかけて旅をしていたが途中で病に倒れ、そのまま彼女に別れを告げることもなく逝ってしまった。（同上、96-1-86）

例（64）の原文は訳文が二つの分文になっている。前の分文は増訳をすることにより、文全体の意味を分かり易くしている。後項の分文もかなり意訳されている。例（65）は原文が一つであるが、訳文は 3 つの分文になっている。3 つの分文はいずれも増訳がしてある。この増訳が無いと、なかなか理解できない場合の訳文である。

C：倒訳して分訳する訳出法

原文の一部を倒訳してから分訳する訳出法である。一般には、文頭に用いる倒訳した部分が強調される。

（66）**牟德俊的几个朋友都说这个小子鬼精！**（『人民』95-2-99）
あいつはほんとにせこい！牟徳俊の友人たちはみんなそう言う。（同上、95-2-98）

（67）**洁有些疲倦地往家走**。（『人民』96-1-87）
潔はきびすを返し、家に向かった。いささか疲れたようだ。（同上、96-1-86）

（68）**丈夫容光焕发地从卫生间出来，一脸喜悦地说：“洁，我们真的要有钱了。”**（『人民』96-1-87）
夫は汗を流し、輝くばかりの顔でバスルームから出て来ると、満面に喜色を浮べてまた言った。「潔、ほんとうだぞ、おれたちは大金をつかんだぞ」（同上）

例（66）の原文“**牟德俊的几个朋友都说这个小子鬼精！**”は単文だが、訳文は二つの文に分かれている。前の文［あいつはほんとにせこい！］が強調されている。（67）の原文“**洁有些疲倦地往家走。**”も単文だが、訳文は二つの文になっている。（68）の原文“**我们真的要有钱了。**”は一つの分文だが、訳文は分訳され、前に用いている［本当だぞ］が強調されている。

2.5. 合訳[12)]

合訳とは、二つ以上の文または分文を一つの文にして訳す方法である。この合訳は二つ以上の分文からそれより少ない文節、あるいは二つ以上の文からいくつかの文節に訳される場合が多い。

(69) **她有又高又直的鼻梁，一双大眼冷冷地看人，舞步一动，却柔情似水**。(『人民』95-6-99)
鼻は高くてまっすぐで、大きな目で冷ややかにぼくを見ていたが、踊りだすとすぐやさしくなった。(同上、95-6-98)

(70) **一丈夫果决地喊到，跨出队列，兴奋地做出一个斗牛士挥动披风的动作，闪在一边**。(『人民』96-5-87)
男性の一人がきっぱり宣言して列を出ると、やや興奮ぎみに闘牛士がマントの裾を払うような挨拶をみせてから列の端に移った。(同上、96-5-86)

(71) **有空时，总是一家人一起走出去，在街上散步。通常是她牵着儿子，丈夫走在她身边**。(『人民』96-3-87)
暇があると全員そろってよく街に散歩にでかけたが、外にでるときはいつも彼女が息子の手を引き、夫が彼女によりそって歩いた。(同上、96-3-86)

(72) **她说太晚了，不好意思打扰人家。医生便说她真好**。(『人民』96-3-87)
彼女が「夜中ですもの、人様に迷惑をかけるわけにはいきません」と答えると、医者たちはいった、「えらいですねえ」(同上、96-3-86)

例(69)の“**舞步一动，却柔情似水**”は、中国語の二つの分文が日本語では一つの文節［踊りだすとすぐやさしくなった］に訳されている。(70)は四つの分文“**一丈夫果决地喊到，跨出队列，兴奋地做出一个斗牛士挥动披风的动作，闪在一边**”が二つの文節［男性の一人がきっぱり宣言して列を出ると、やや興奮気味に闘牛士がマントの裾を払うような挨拶をみせてから列の端に移った］に訳されている。

例(71)は二つの文(前の文“**有空时，总是一家人一起走出去，在街上散步。**”は三つの分文、後の文“**通常是她牵着儿子，丈夫走在她身边。**”は二つの分文)が日本語では三つの文節［暇があると全員そろってよく街に出かけたが、外に出るときはいつも彼女が息子の手を引き、夫が彼女によりそって歩いた］からなる一つの文に訳されている。(72)は二つの文(前の文“**她说太晚了，不好意思打扰人家**”は二つの分文、後の文“**医生便说她真好。**”は単文)が四つの文節［彼女が「夜中ですもの、人様に迷惑をかけるわけにはいきません」と答えると、医者たちはいった、「えらいですねえ］からなる一つの文に訳されている。

12) 今冨正巳(1995)では「合訳」の訳出法は挙げていないが、呉大綱(2014：21)では合訳の例文と訳文を挙げている。この二冊を通じて翻訳学の発展が伺える。

3. おわりに

中文日訳は基本的には対応するが、そうではない場合が多々ある。本稿では対応しない場合に焦点を当て、今冨正巳の翻訳の要領を基礎とし呉大綱の翻訳語法学を参考にし、それらに若干手を加え、翻訳の要領を「意味上の不対応関係」と「構造上の不対応関係」に分けて検討した。これらは、以下のように図表化できる。

[中文日訳の基本要領]

- 中文日訳
  - 意味上の不対応関係
    - 意味不対応
    - 転成訳（別称：変訳）
    - 換言訳
  - 構造上の不対応関係
    - 増減訳（増訳・減訳）
    - 倒訳
    - 分合訳（分訳・合訳）

言語資料

『人民中国』ショートショート　人民中国雑誌社　1988～1997

参考文献

1．今冨正巳（1995）『新訂中国語←→日本語翻訳の要領』光生館
2．**苑 崇利**（2008）**『日本文化概观』外语教学与研究出版社**
3．汪 玉林（2002）「中国語の中の数字文化」『明海日本語』第 7 号（ネット）
4．栗田直躬（1996）『中国思想における自然と人間』岩波書店
5．**吴 大纲**（2014）**《汉译日翻译语法学》华东理工大学出版社**
6．鈴木康之（2000）『日本語学の常識』海山文化研究所
7．鈴木康之（2014）『連語論講義録』大東文化大学
8．高橋弥守彦（2017）『中日対照言語学概論―その発想と表現―』日本僑報社
9．**张志军**（2008）**《日语自他动词》旅游教育出版社**
10. 蜂屋邦夫（1996）『中国思想とは何だろうか』河出書房新社
11. 宮島達夫（1972）『動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
12. 山本秀樹（2002）「世界諸言語の語順類型研究における諸問題」『人文社会論争、人文科学篇』7 弘前大学人文学部

（2017 年 9 月 29 日受理）